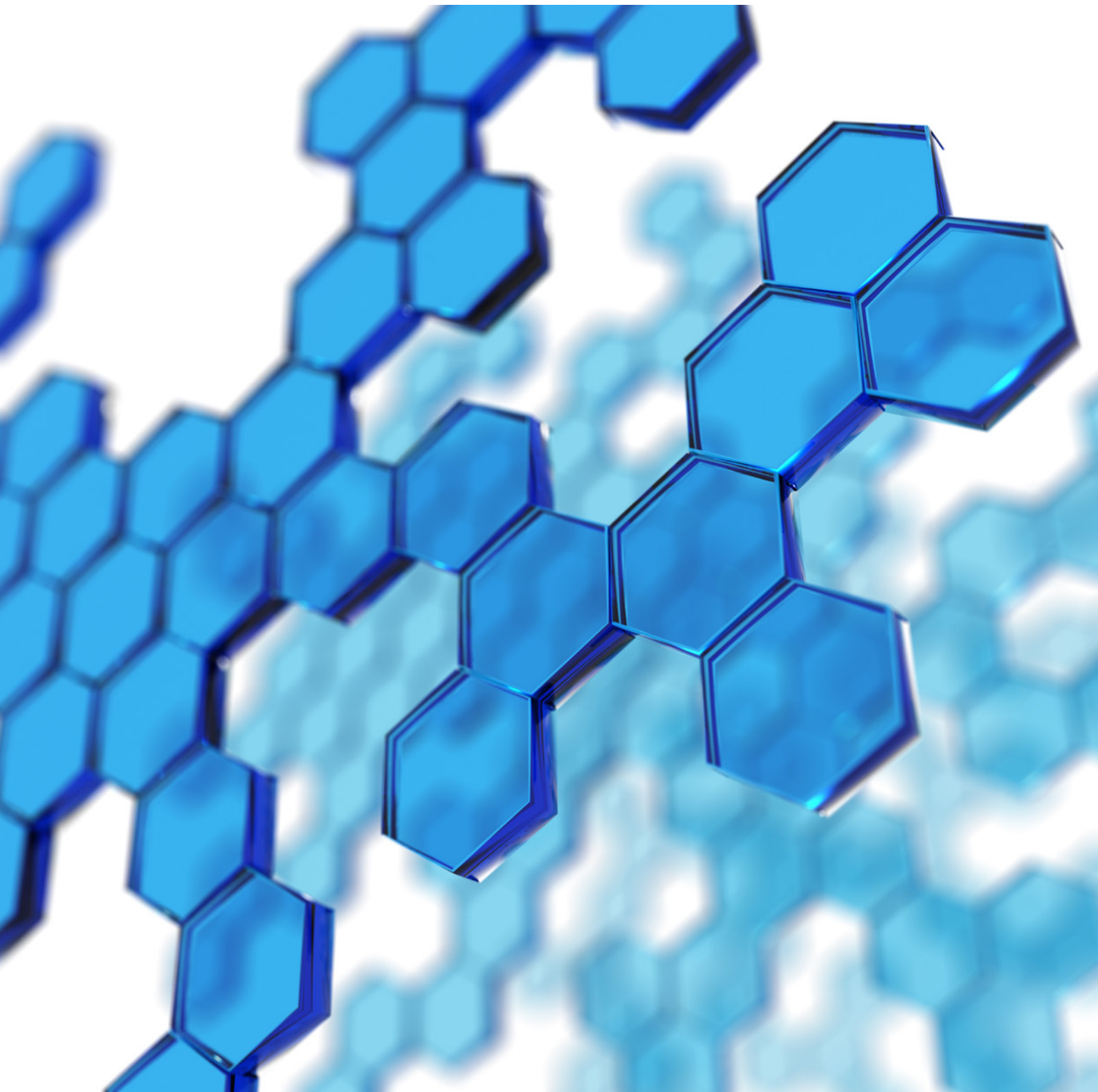


セキュリティ/可用性もクラウドで
中小企業のWebサイト1万件を支える社長が語る、
Webをビジネスに生かすための極意



1万以上に上る中小企業の Web サイトを支えているガーディアンの青山裕一社長に、中小企業や自治体の Web サイトを成功させるコツを聞くと、「運用を開始した後、成果を出すための努力を継続することが重要」と話す。だが、人も金も少ないところは、どうすればいいのだろうか。

1万以上に上る中小企業の Web サイトを支える構築・運用プラットフォームを展開しているガーディアンの青山裕一社長は、この分野のプロだといえる。同氏に中小企業や自治体の Web サイトを成功させるコツを聞くと、次のように答えた。

「誰もが最初は格好の良い Web サイトを作りたいものです。私たちはこれが容易にできるようにして、支援しています。ただし、『格好の良いものを作ったら終わり』ではありません。運用を開始した後、顧客のビジネスに成果を出さなければなりません。Web サイトは今や単なる飾りではなく、事業を発展させるためのものだからです」

「結果を出せる Web サイト」が 専門知識なしにできる理由

ガーディアンは、Web サイト構築・運用の「予算がない」「知識がない」「担当者がいない」の三重苦に悩まされている中小企業にとって役立つユニークなサービス「OWLet」を展開している。

OWLet は、基本的には「CMS（コンテンツマネジメントシステム）」と呼ばれる仕組みだ。全国に存在するガーディアンのパートナーとなっている Web サイト制作会社が、このシステムを使い、中小企業などの顧客のために Web サイトを構築する。そして、ガーディアンがその Web サイトの運用を担当し、パートナーは顧客対応に当たる。



ガーディアンの青山裕一社長

全国の OWLet パートナーは、Web デザイナーさえいれば、安定した品質の動的な Web サイトを構築できる。つまり、顧客のビジネスに貢献できる Web サイトを作ることに専念できる。技術的な部分は、OWLet によって自動化されているからだ。このシステムを使うことで、パートナーは Web サイト制作・運用サービスを安価に提供できる。

ガーディアンは顧客に直接サービスを提供する Web サイト制作会社として成長してきた企業。顧客が増えるにつれ、安定した品質の Web サイトを迅速に構築しなければならない必要性にかられ、自社のノウハウを詰め込んだ Web サイト構築・運用自動化システムとして OWLet を開発したという経緯がある。

その後、パートナーの黒子として OWLet の提供を開始。このシステムは、2 年間のうちに 1 万サイトを支える構築・運用プラットフォームに育った。

このような実績に基づく、冒頭の「成果を出す」というコメントは、実は深い意味を持っている。

青山氏は、Web サイトがエンドユーザーである中小企業の事業や業務に貢献できなければならないと考えている。

「実際のところ、Web サイトは今や、中小企業であっても、低コストで世界中に自社をアピールできるビジネス上の武器になりました。しかし、ビジネスに生かせるよう工夫しなければ、成果を上げることはできません」（青山氏）

だからこそ、構築後の PDCA の継続が重要だという。

「Web サイトをビジネスに生かすためには、運用開始後も、身体で言えば健康診断のように定期的なチェックを行い、改善すべき点はないかを探って、対策を講じるというサイクルを回していくことが重要です。単純な話として、Web サイトを立ち上げたなら、できるだけ多くのアクセスを獲得することを目指すべきです。あるいは、伝えたいメッセージをできるだけ多くの人たちに、確実に伝えられるようにすべきです。このためには、コンテンツの構成から、『SEO 対策』と一般に呼ばれるものに至るまで、さまざまな側面から継続的な改善に取り組む必要があります」（青山氏）

そう言われても、「自社にノウハウはないし、

高価なコンサルティングに金を払い続ける余裕もない」と反発したくなる企業がほとんどだろう。こうした反応を見越して、ガーディアンでは OWLet に Web サイトの改善点を自動でアドバイスする機能を組み込んでいる。

こうした機能を使えば、例えば SEO 用語がほとんど理解できないような人でも、効果的な Web プロモーションを実行するために何をすればいいかが分かるようになっている。

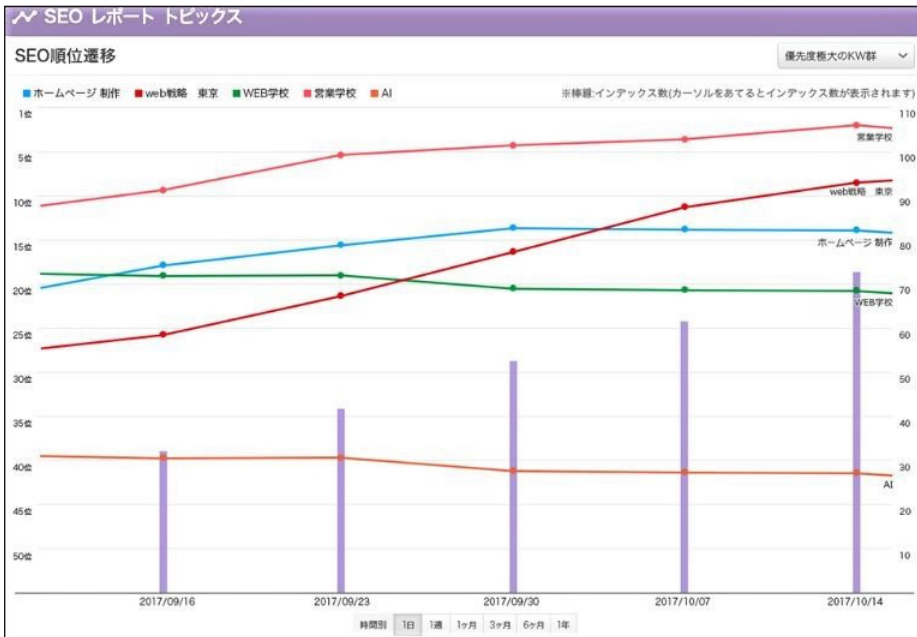
例えば自社の Web サイトについて、ページビュー／ユーザー数、直帰率／離脱率などに加え、どこからどのようにアクセスが流入してきているのかが一目で分かる。このため、SNS や検索エンジンへの広告を含めた対策を、どのように運用・フォローすべきかが見出しやすいという。SNS 投稿については、投稿ごとのリーチ数や反響がグラフ化されるため、各投稿の貢献度が一目で分かる。

検索エンジン対策についても、ある程度の自動化されたアドバイスが得られるという。Google 検索では、アルゴリズムがブラックボックス化されているだけでなく、不定期に変更されることが、Web 担当者の頭を悩ませている。だが、ガーディアンでは複数の Web サイトを使った定点観測を通じ、Google 検索における各種キーワードのパフォーマンスを常時解析し、この結果を自動アドバイスシステムに反映させているという。

OWLet の SEO 対策機能では、Google のキーワード検索順位の推移が自動的にグラフ化される。これにより、自社の行っている対策が正しいかどうかを常時確認できる。また、SEO 対策ができていくかどうかをページ単位で自動判定し、○×で示してくれる。

こうしたサービスの前提として、パートナーやエンドユーザー顧客には目に見えにくいのが、Web サイトの安定稼働とセキュリティの確保は本来非常に重要だと、青山氏は力説する。肝心の Web サイトが性能不足やダウンでアクセスを処理できない、あるいはセキュリティ上の侵害を受けたとなれば、どんな SEO 対策も水泡に帰するどころか、エンドユーザー組織の評価が崩壊する可能性すらあるからだ。

ガーディアンでは Web サイトについては三重の冗長化を実施。セキュリティに関しては、6 人の社外ホワイトハッカーと契約し、スキガ



Google キーワード検索順位の推移が自動でグラフ化される

SEOレポート													
解析データ生成日時 2017-09-06 16:12:25													
解析データ生成													
タイトル, description, H1が重複しているページのみ表示													
ページ情報	コンテンツ						キーワード出現回数						
	URL	タイトル	description	bodyタグ	H1	alt/画像	発LINK	内部リンク	1	2	3	4	5
WEB戦略, CMS構築, ホームページ制作, 効果UP	WEB戦略, CMS構築, ホームページ制作, 効果UP	30文字	112文字	1521.5文字	40文字	100/111	179	2,646	WEB 9回	戦略 2回	効果 2回	ホーム ページ 7回	CMS 2回
「資料ダウンロード」サイト変化から見るAmazon「資料ダウンロード」サイト変化から見るAmazon_research/	25文字	103.5文字	2267.6文字	25文字	12/20	142	757	WEB 9回	戦略 0回	効果 0回	ホーム ページ 6回	CMS 0回	
会社情報 東京の株式会社カーディアン WEB戦略, ホームページの効果アップのことなら company/	18文字	112文字	2454文字	34文字	11/19	142	2,647	カーディアン 11回	会社 18回				
お問い合わせ 東京の株式会社カーディアン お問い合わせ 東京の株式会社カーディアン contact_us/	20文字	106.5文字	2493文字	20文字	11/19	142	2,269	お問い合わせ 10回	カーディアン 8回				
株式会社道新サービスセンター 『中小企業を支援する道新サービスセンター』のエントリーページ doshin-sc_entry/	28文字	107文字	3672.5文字	23文字	50/66	149	757	WEB 11回	戦略 2回	効果 0回	ホーム ページ 9回	CMS 2回	
休業期間中のお問い合わせ 東京の株式会社カーディアン 休業期間中のお問い合わせ emergency/	26文字	111.5文字	1693文字	26文字	11/19	142	1	カーディアン 7回	休業期間中 0回	お問合せ 1回			
メルマガ 東京の株式会社カーディアン メールマガジン mailmagazine/	18文字	111.5文字	1605.5文字	18文字	13/21	142	757	WEB 9回	戦略 0回	効果 0回	ホーム ページ 6回	CMS 0回	

ページごとに SEO 対策ができているかどうかを○×で判定

ないかどうかを常時チェックしているという。

上記はいわばアプリケーション側の対策といえるが、インフラについては IBM Cloud を採用し、安定稼働とセキュリティを担保しているという。

「インフラは、エンドユーザー、パートナー、そして私たちも、意識しないで済むに越したことはない。IBM Cloud はそれを実現してくれています」(青山氏)

実は以前、ガーディアンは他のクラウドサービスを利用したことがある。その際は、Web サイトを稼働させる仮想サーバの不安定さや性能不足に悩まされたという。具体的には、それまでオンプレミスで運用していたサーバのうち約 2 割をこのクラウドに移行したところ、

移行したサーバの 8 割でトラブルが発生したという。ところが IBM Cloud に移行して以降は、全くトラブルが発生していない。このため、「基盤については全く気にしなくなりました」と青山氏は語っている。

「Web サイト運用のプロを自負していますので、当初は IBM Cloud がどう運用されているかを詳しくチェックしました。Web アクセスの応答性だけでなく、セキュリティ水準、サーバメンテナンスの顧客配慮、問い合わせ対応の品質など、さまざまな面でわれわれの期待を上回る結果が得られました。このような理由から IBM Cloud を、安心して利用できると感じています」(青山氏)

どこにあるWebサイトでも セキュリティと パフォーマンスを確保できる 親しみやすいサービスがある

ところで、日本 IBM が、IBM Cloud を使う、使わないに関わらず、幅広いユーザーに対し、低い月額料金で提供している Web セキュリティと Web 安定稼働のサービスがあるのをご存じだろうか。

このサービスは「IBM Cloud Internet Services (以下、CIS)」で、1ドメインあたり月額約 3 万円から利用できる。Web セキュリティ、Web サイトの可用性、サービス性能、安定稼働を確保するための機能がパッケージ化されている。

「CIS は、名前の通りインターネットに向けてサービスを提供する事業者が必要とする機能を、ひとまとめにしたものです」と、日本 IBM クラウド事業本部 テクニカル・セールス シニア IT スペシャリストの玉川雄一氏は説明する。

具体的には、WAF (Web アプリケーションファイアウォール)、DDoS 対策、CDN、グローバル負荷分散などの機能が、クラウドサービスとして利用できる。

「Web アプリケーションのレイヤーについては、このサービスを利用しさえすれば、セキュリティとサービス継続性の 2 つの点で安心が得られます。シンプルなファイアウォールだけで Web サイトのセキュリティを守ろうとしているケースがまだまだ多く見受けられますが、初期費用が要らず、1ドメインあたり月額料金約 3 万円で充実したセキュリティが得られ、なおかつ Web アクセスの急増にも対応できるサービスです」(玉川氏)



日本 IBM クラウド事業本部 テクニカル・セールス シニア IT スペシャリストの玉川雄一氏



日本 IBM クラウド事業本部 テクニカル・セールスの葉山慶平氏

日本 IBM クラウド事業本部 テクニカル・セールスの葉山慶平氏は、「欧米ではネットバンキングや、仮想通貨を扱う金融取引事業者の顧客もいます。つまり、金融機関も信頼するレベルのサービスを、誰もが月額の低料金で利用できるわけです」と話している。

CIS は、IBM Cloud の管理コンソール画

面でサービスを有効化するだけで、即座に利用を開始できるサービスだ。それだけではない。IBM Cloud 上の Web サイトに加え、他のクラウド上の Web サイトや、企業の社内データセンターに置かれた Web サイトも対象とすることができる。これら別の場所で運用されている Web サイトにまたがって負荷分散を適用することもできるし、これら全てを WAF で保護することもできる。

前出の青山氏も、このサービスには興味津々だ。

「CIS がどこにある Web サイトにも適用できるということは、ユーザー側が自分の都合で自由に活用できるということ。クラウドでセキュリティ/可用性サービスが提供されることのメリットが十分に発揮されています」

ガーディアンにとっても、一般的な中小企業の Web サイトについてはこれまでのやり方を貫くにしろ、特殊なニーズへの対応には CIS のほうが適している可能性がある。例えば Web サイトを社内データセンターから IBM Cloud

へ段階的に移行するにしても、CIS の負荷分散機能を活用しながらやればスムーズだ。

その上で、青山氏はクラウドへの移行を熱心に主張する。

「いつ自社の Web サイトへのアクセスが殺到するか、もはや予測することはできません。アクセス増に Web サイトの処理能力が対応できず、せつかくのチャンス逃すのでは、元も子もありません。クラウドで Web サイトを運用することは時代の流れですし、今ではあらゆる企業にとって、Web サイト運用の前提だとすら言えると思います」

青山氏が強調するように、Web はビジネスのための戦略的な武器となっている。安定運用とセキュリティはその前提としてますます重要である一方、無駄なコストや時間をかける余裕はなくなっている。こうした時代に求められるのは、自由度が高く、安心できるクラウドベースのセキュリティ/安定運用支援サービス。CIS が多くの企業にとって最適な理由はここにある。

● お問い合わせ

日本アイ・ビー・エム株式会社

TEL : 0120-550-210 受付時間 9:00 ~ 17:00(土、日、祝日を除く)

Mail : CLOUDEDM@jp.ibm.com

※ お問い合わせの際は「@IT掲載 IBM Cloud の件」とお申し付けください。